

アラビアンナイトの形成過程とオリエンタリズム的 文学空間創出メカニズムの解明

西尾 哲夫 (人間文化研究機構 国立民族学博物館・研究戦略センター・助教授)

【研究の概要等】

アラビアンナイト(千一夜物語)は西暦9~10世紀ごろのバグダードで原型が成立し、15~16世紀ごろのカイロでほぼ完成した。中東では忘れられたが、18世紀のフランス人東洋学者アントワーヌ・ガランによるフランス語訳を通して世界文学となった。ヨーロッパ紹介後のアラビアンナイトは、オリエンタリズムという巨大な文化潮流によって重大な質的变化を経験し、現代における一般的中東イメージ構築への地下水脈としての役割を果たしてきた。

本研究では、これまで等閑視されてきた中世イスラム社会研究の第一級資料としてのアラビアンナイトが持つ社会文化史的意義に着目し、世界に散在する文献資料の発掘、整理、分析を通して中東世界における同物語集の原型、社会的受容、変遷を究明するとともに、中世イスラム文化の基部構造を再構築する。具体的には、(1)中東イスラム世界におけるガラン訳アラビアンナイト出現以前(17世紀以前)のアラビアンナイト形成過程、(2)ガラン訳アラビアンナイト出現以降(18世紀以降)のアラビアンナイト受容による文明間イメージ形成と文学テキスト生成の相互作用を明らかにする。

【当該研究から期待される成果】

欧米・日本におけるアラビアンナイトの受容、中東イスラム世界における再受容の分析を通じて、アラビアンナイトを媒介とした文明的往還による文明間相互イメージの形成メカニズムを解明する。オリエンタリズムを代表する文学作品と見なされてきたアラビアンナイトを文明間交流による人類の歴史的文化的遺産として再認識し、普遍的な文化的他者認識の中に一過性の文明現象を発生させるメカニズムを探ることにより、「文明の衝突」論を超える異文明間共生論構築のための事例研究とする。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

・ Nishio, Tetsuo & Yamanaka, Yuriko eds. 2006 *The Arabian Nights and Orientalism: Perspectives from East and West*. London: I.B.Tauris. 269p.

・ Nishio, Tetsuo 2004 Les Mille et Une Nuits et la genèse littéraire de l'Orientalisme au Japon. In Aboubakr Chraïbi ed. *Les Mille et Une Nuits en partage*. Paris: Sindbad. pp.141-150.

【研究期間】 平成18年度 - 22年度

【研究経費】 13,900,000 円

【ホームページアドレス】

なし